

様式第 1 0

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
鎌倉、逗子、葉山地域	鎌倉市、逗子市、葉山町	平成 30 年度～令和 6 年度	平成 30 年度～令和 6 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成28年度)	目 標 (令和7年度) A	実 績 (令和7年度) B	実績 /目標
排出量	事業系 総排出量	t	t	%
	1 事業所当たりの排出量	t	t	%
	生活系 総排出量	t	t	%
	1 事業所当たりの排出量	kg/人	kg/人	%
	合 計 事業系生活系総排出量合計	t	t	%
再生利用量	直接資源化量	14,482t	17,753t	12,016t 10.0%
	総資源化量	45,271t	56,010t	40,951t 35.6%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t %

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成28年度)	目 標 (令和7年度) A	実 績 (令和7年度) B	実績 /目標
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口	240,527 人	249,589 人	236,450 人 -44.99%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	90.76%	97.50%	91.27% 7.57%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	5,604 人	5,303 人	6,769 人 -387.04%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	2.11%	2.07%	2.61% -1,250.00%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	18,871 人	1,089 人	15,858 人 16.94%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

ごみ処理については、計画期間を通じてごみの発生抑制及び資源循環の推進を図るため、分別収集の徹底、資源物回収の実施、ごみ減量に関する普及啓発等の各種施策を継続的に実施するとともに、広域処理体制の推進や資源化手法の検討を進めてきた。

また、計画期間終盤には、生ごみ分別収集といった新たな資源化施策の導入にも取り組み、ごみの減量化及び焼却量の削減に向けた施策を着実に推進してきたところである。

一方で、計画策定時に想定したごみ排出量や資源物排出量の推移と実際の排出実態との間に差異が生じたことに加え、新たに実施した資源化施策については計画期間内で十分な効果を得るまでには至らず、再生利用量について目標を達成することができなかった。

住民のライフスタイルやごみ排出実態の変化なども影響を及ぼしたものと考えられる。

しかし、総排出量及び最終処分量については計画目標を上回る成果を達成しており、これまで実施してきた各種施策は、ごみの減量化及び最終処分量の削減に一定の効果をもたらしたものと評価している。

生活排水処理については、公共下水道整備区域における下水道整備及び接続促進を進めるとともに、下水道整備区域外においては合併処理浄化槽への転換促進や補助制度の活用を図るなど、生活排水の適正処理に向けた取組を継続して実施してきた。

しかし、公共下水道整備の進捗状況や各家庭における接続時期などの影響により、計画期間内において目標としていた污水处理人口普及率及び未処理人口に係る目標の達成には至らなかった。

3 目標達成に向けた方策

【目標達成年度 令和 12 年度まで】

ごみ処理については、計画期間中に開始した生ごみ資源化事業の着実な定着を図るとともに、紙おむつ資源化をはじめとした新たな資源化施策を推進し、更なる焼却量の削減及び再生利用量の向上を図る。

また、住民及び事業者に対する分別ルール の周知徹底や普及啓発を継続するとともに、ごみ排出実態や資源化実績を継続的に分析・検証し、その結果を踏まえながらより効果的な施策への見直し及び改善を図っていく。

さらに、鎌倉市、逗子市及び葉山町による広域連携を一層推進するとともに、民間資源化施設の活用や新たな資源化技術の導入についても積極的に検討し、社会情勢や廃棄物処理を取り巻く環境の変化に柔軟に対応できる持続可能な処理体制の構築を進める。

生活排水処理については、公共下水道整備区域における整備及び接続促進を着実に進めるとともに、下水道整備区域外においては、合併処理浄化槽への転換促進及び補助制度の積極的な活用を図る。

また、生活排水処理に関する普及啓発を継続し、住民の理解と協力を得ながら污水处理人口普及率の向上及び未処理人口の削減に努める。

今後は、本改善計画に基づく取組を次期循環型社会形成推進地域計画へ適切に反映するとともに、各施策の進捗状況について定期的な検証及び評価を行い、その結果を施策へ反映させる PDCA サイクルを着実に実施することで、循環型社会の形成に向けた取組を継続的かつ効果的に推進していく。

(都道府県知事の所見)

ごみ処理については、再生利用量の目標は達成していないが、ごみの減量化及び焼却量の削減に向けた施策を着実に推進していると考ええる。

今後も改善に向けて、住民及び事業者に対する分別ルール の周知徹底や普及啓発を引き続き進めていただきたい。

生活排水処理については、污水衛生未処理人口の目標は達成していないが、着実に減少している。また、葉山町は、平成 29 年度から令

和 7 年度まで浄化槽設置の補助額を町単費で上乗せする等、合併処理浄化槽の普及促進を積極的に進めていると考える。

今後も神奈川県生活排水処理施設整備構想を踏まえ、地域全体における生活排水処理率の更なる向上を目指し、生活排水処理に関する普及啓発を継続し、公共下水道への接続を促進するとともに、循環型社会形成推進交付金や県の補助制度を積極的に活用し、合併処理浄化槽への転換促進を図られたい。